

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人目白学園

(2) 大学名

目白大学

(3) 大学の位置

〒161-8539
東京都新宿区中落合4-31-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オザキ ハルキ) 尾崎 春樹 (平成27年1月)		
学長	(サトウ グンエイ) 佐藤 郡衛 (平成26年4月)	(サワザキ タツオ) 沢崎 達夫 (平成30年4月)	佐藤郡衛退職に伴い、平成30年4月1日、沢崎達夫前副学長が新学長に就任(30)
学部長	(ミカミ ヨシカズ) 三上 義一 (平成30年4月)		
学科長等	(ミカミ ヨシカズ) 三上 義一 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
メディア学部 メディア学科 学士 (メディア学)	社会学・社会福祉学関係	4年	140人	- 年次人	560人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	140 () [-]								1.05倍	
志願者数	720 () [9]	- () [-]								
受験者数	701 () [9]	- () [-]								
合格者数	315 () [2]	- () [-]								
B 入学者数	148 () [2]	- () [-]								
入学定員超過率 B/A	1.05									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	148 [2] (-)	— [-] (-)							
2年次	/								
3年次	/		/						
4年次	/		/		/				
計	148 [2] (-)								

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	148 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
平成33年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
			平成33年度	人	人	
合 計	148 人	0 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{148} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成33年度】

$$\frac{\text{平成33年度の退学者数(a)}}{\text{平成33年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<メディア学部 メディア学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次セミナー	フレッシュマンセミナー	1前	1			5	4	3	2			
	ベーシックセミナー	1後	1			5	4	3	2			
分野横断科目	大学生活と学問	1前		2							兼1	
	知の探究法	1後		2		1					兼4	
	「目白大学」を知る	1前		2		1	2				兼7	
	科学的なものの見方・考え方	1後		2							兼4	
	雑穀文化を学ぶ	2後		2							兼4	
学際科目	感性を磨く芸術論	2後		2							兼3	
	知の対象としての恋愛	2後		2			1				兼5	
	人間と遊び	2後		2							兼6	
	社会生活のデザイン	2後		2							兼3	
	子供とメディア	2後		2		2	1					
	「観光」で読み解く現代社会	2後		2							兼5	
	お金とつきあう	2後		2							兼3	
	社会の中のことば	2後		2							兼2	
	日本語再発見	2後		2							兼6	
	コトバの実験室	2後		2							兼2	
	異分野入門科目	心理学フロンティア	2前		2							兼6
		ボランティア入門	2前		2							兼9
保育と乳幼児精神保健		2前		2							兼3	
現代教育入門		2前		2							兼4	
ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧		2前		2							兼4	
ことばの「しくみ」と「はたらき」		2前		2							兼3	
東アジアの言語と文化		2前		2							兼2	
総合科目	古典に学ぶ	2前		2							兼4	
	グローバルな視点で学ぶ社会と人間	3前		2							兼5	
	サステナブル社会を考える	3前		2							兼4	
グローバル課題探求科目	食と農から考える地域と世界	3後		2							兼3	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次セミナー	フレッシュマンセミナー	1前	1			5	4	3	2			
	ベーシックセミナー	1後	1			5	4	3	2			
分野横断科目	大学生活と学問	1前		2							兼14	
	知の探究法	1後		2		1					兼4	
	「目白大学」を知る	1前		2		1	2				兼8	
	科学的なものの見方・考え方	1後		2							兼4	
	雑穀文化を学ぶ	2後		2							兼4	
学際科目	感性を磨く芸術論	2後		2							兼3	
	知の対象としての恋愛	2後		2			1				兼5	
	人間と遊び	2後		2							兼6	
	社会生活のデザイン	2後		2							兼3	
	子供とメディア	2後		2		2	1					
	「観光」で読み解く現代社会	2後		2							兼5	
	お金とつきあう	2後		2							兼3	
	社会の中のことば	2後		2							兼2	
	日本語再発見	2後		2							兼6	
	コトバの実験室	2後		2							兼2	
	異分野入門科目	心理学フロンティア	2前		2							兼6
		ボランティア入門	2前		2							兼9
保育と乳幼児精神保健		2前		2							兼3	
現代教育入門		2前		2							兼4	
ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧		2前		2							兼4	
ことばの「しくみ」と「はたらき」		2前		2							兼3	
東アジアの言語と文化		2前		2							兼2	
総合科目	古典に学ぶ	2前		2							兼4	
	グローバルな視点で学ぶ社会と人間	3前		2							兼5	
	サステナブル社会を考える	3前		2							兼4	
グローバル課題探求科目	食と農から考える地域と世界	3後		2							兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
習	情報活用応用演習	1前・後		2								兼2
	情報活用特別演習	2前		2								兼1
	数と情報	1前・後		2								兼3
スポーツ・健康	生涯スポーツ1	1前・後	1									兼2
	生涯スポーツ2	2前・後		1								兼4
	生涯スポーツ3	3前・後		1								兼2
	健康科学	1前・後	1									兼1
	健康科学演習(心とからだ)	2後		1								兼2
キャリアデザイン	専門とキャリアA	2前	1			1						
	専門とキャリアB	2後	1			1						
	仕事と社会	3前		1								兼1
	キャリア研修I	1前・後		2								兼1
	キャリア研修II	2前・後		2								兼1
学部基礎科目	メディアと社会	1前	2				1					
	メディア学概論	1前	2					1				
	メディアと心理	1後	2			1						
	メディア・リテラシー論	1後	2				1					
	メディア発達史	1後	2			1						
	メディア情報概論	1前	2			1						
	メディアとモラル	1前	2			1						
	メディア社会と法	1後	2									兼1
コア領域	メディア社会論	2前	2			1						
	情報社会論	2前	2									兼1
	美術入門	1後	2									兼1
	消費社会論	1後	2									兼1
	メディア産業概論	2前	2			1						
学部奥	メディア技法入門	1前	2			1	1					
	造形入門	1前	2									兼1
	デザイン技法I	2前	2			1						兼1
	デザイン技法II	2後	2			1						
	メディア調査法1	2前	2				1					
	メディア調査法2	2後	2					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
習	情報活用応用演習	1前・後		2								兼2
	情報活用特別演習	2前		2								兼1
	数と情報	1前・後		2								兼3
スポーツ・健康	生涯スポーツ1	1前・後	1									兼3
	生涯スポーツ2	2前・後		1								兼4
	生涯スポーツ3	3前・後		1								兼2
	健康科学	1前・後	1									兼1
	健康科学演習(心とからだ)	2後		1								兼2
キャリアデザイン	専門とキャリアA	2前	1				1					
	専門とキャリアB	2後	1				1					
	仕事と社会	3前		1								兼1
	キャリア研修I	1前・後		2								兼1
	キャリア研修II	2前・後		2								兼1
学部基礎科目	メディアと社会	1前	2					1				
	メディア学概論	1前	2						1			
	メディアと心理	1後	2			1						
	メディア・リテラシー論	1後	2				1					
	メディア発達史	1後	2			1						
	メディア情報概論	1前	2			1						
	メディアとモラル	1前	2			1						
	メディア社会と法	1後	2									兼1
コア領域	メディア社会論	2前	2			1						
	情報社会論	2前	2									兼1
	美術入門	1後	2									兼1
	消費社会論	1後	2									兼1
	メディア産業概論	2前	2			1						
学部奥	メディア技法入門	1前	2			1	1					
	造形入門	1前	2									兼1
	デザイン技法I	2前	2			1						兼1
	デザイン技法II	2後	2			1						
	メディア調査法1	2前	2				1					
	メディア調査法2	2後	2						1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
科目 方法論領域	Web技法	1後		2			1					
	写真撮影技法	1後・2前		2								兼1
	編集技法Ⅰ	2後		2								兼1
	編集技法Ⅱ	3前		2		1						
	コンテンツ企画	1後		2								兼1
	メディア取材法	2前		2			1					
	メディア文章表現	3前		2		1						
	デジタル・プレゼンテーションⅠ	3前		2								兼1
	デジタル・プレゼンテーションⅡ	3後		2								兼1
	メディア身体表現	2後		2								兼1
メディア統計分析	3前		2								兼1	
メディアと社会・文化分野	メディア思想史	2後		2			1					
	放送論	2後		2			1					
	ジャーナリズム論	2後		2		1						
	インターネット・コミュニケーション論*	2後		2			1					
	グローバルジャーナリズム論	3前		2		1						
	地域メディア論	2後		2			1					
	メディア・リテラシー演習	3前		2				1				
	メディア文化論	2前		2				1				
	音楽文化論	3後		2				1				
	サブカルチャー論	3前		2				1				
	多文化共生論	3前		2								兼1
	教育とメディア	3前		2			1					
	エデュテイメントシステム制作演習	3後		2			1					
	出版メディア論	2後		2			1					
	コミックス文化論	3後		2								兼1
電子出版論	3後		2								兼1	
メディア社会・文化特講	3後		2					1				
メディアとビジネス	2前		2								兼1	
イベント概論	2後		2			1						
イベントプロデュース論	3前		2			1						
イベント制作・運営演習	3後		2			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
科目 方法論領域	Web技法	1後		2				1				
	写真撮影技法	1後・2前		2								兼1
	編集技法Ⅰ	2後		2								兼1
	編集技法Ⅱ	3前		2		1						
	コンテンツ企画	1後		2								兼1
	メディア取材法	2前		2			1					
	メディア文章表現	3前		2				1				
	デジタル・プレゼンテーションⅠ	3前		2								兼1
	デジタル・プレゼンテーションⅡ	3後		2								兼1
	メディア身体表現	2後		2								兼1
メディア統計分析	3前		2								兼1	
メディアと社会・文化分野	メディア思想史	2後		2				1				
	放送論	2後		2				1				
	ジャーナリズム論	2後		2		1						
	インターネット・コミュニケーション論*	2後		2			1					
	グローバルジャーナリズム論	3前		2		1						
	地域メディア論	2後		2				1				
	メディア・リテラシー演習	3前		2					1			
	メディア文化論	2前		2					1			
	音楽文化論	3後		2					1			
	サブカルチャー論	3前		2					1			
	多文化共生論	3前		2								兼1
	教育とメディア	3前		2			1					
	エデュテイメントシステム制作演習	3後		2			1					
	出版メディア論	2後		2			1					
	コミックス文化論	3後		2								兼1
電子出版論	3後		2								兼1	
メディア社会・文化特講	3後		2						1			
メディアとビジネス	2前		2								兼1	
イベント概論	2後		2			1						
イベントプロデュース論	3前		2			1						
イベント制作・運営演習	3後		2			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
メディアと産業・消費分野	広告論	2後	2			1						
	広告表現論	3前	2			1						
	広告プランニング論	3前	2			1						
	広告制作演習	3前	2			1						
	広報・PR論	2後	2								兼1	
	社会デザイン論	3後	2			1						
	エンターテインメント論	2後	2			1						
	アニメーション制作演習Ⅰ	2後	2			1						
	アニメーション制作演習Ⅱ	3前	2			1						
	アニメーション制作演習Ⅲ	3後	2			1						
	サウンド分析演習	3前	2								兼1	
	サウンド制作演習	3後	2								兼1	
	イベント・広告プランニング特講	3後	2			1						
	エンターテインメント・プロデュース特講	3後	2			1						
メディアと表現・技術分野	デザイン論	2後	2			1						
	デジタル・アーカイブ論	3前	2								兼1	
	メディアアート	3後	2								兼1	
	メディア情報論	2前	2					1				
	映像表現論	2前	2			1						
	映画論	2後	2			1						
	映像制作演習Ⅰ	2後	2			1	1					
	映像制作演習Ⅱ	2後	2			1	1					
	映像制作演習Ⅲ	3前	2			1	1					
	映像制作応用演習	3後	2			1						
	ライブ番組制作演習	3前	2								兼1	
	シナリオ論	3前	2			1						
	ショートフィルム論	3後	2			1						
	映像制作技術論	3前	2					1				
インタフェース論	2後	2			1							
プログラミング基礎	2後	2					1					
Webシステム	3後	2					1					
情報ネットワーク論	3前	2			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
メディアと産業・消費分野	広告論	2後	2			1						
	広告表現論	3前	2			1						
	広告プランニング論	3前	2			1						
	広告制作演習	3前	2			1						
	広報・PR論	2後	2								兼1	
	社会デザイン論	3後	2			1						
	エンターテインメント論	2後	2			1						
	アニメーション制作演習Ⅰ	2後	2			1						
	アニメーション制作演習Ⅱ	3前	2			1						
	アニメーション制作演習Ⅲ	3後	2			1						
	サウンド分析演習	3前	2								兼1	
	サウンド制作演習	3後	2								兼1	
	イベント・広告プランニング特講	3後	2			1						
	エンターテインメント・プロデュース特講	3後	2			1						
メディアと表現・技術分野	デザイン論	2後	2			1						
	デジタル・アーカイブ論	3前	2								兼1	
	メディアアート	3後	2								兼1	
	メディア情報論	2前	2					1				
	映像表現論	2前	2			1						
	映画論	2後	2			1						
	映像制作演習Ⅰ	2後	2			1	1					
	映像制作演習Ⅱ	2後	2			1	1					
	映像制作演習Ⅲ	3前	2			1	1					
	映像制作応用演習	3後	2			1						
	ライブ番組制作演習	3前	2								兼1	
	シナリオ論	3前	2			1						
	ショートフィルム論	3後	2			1						
	映像制作技術論	3前	2					1				
インタフェース論	2後	2			1							
プログラミング基礎	2後	2					1					
Webシステム	3後	2					1					
情報ネットワーク論	3前	2			1							

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の充実を図るために、「大学生活と学問」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任14」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「目白大学を知る」の専任教員等の配置を「兼任・兼任7」から「兼任・兼任8」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「日本の歴史（日本史）」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「日本の歴史（日本史）」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「English Test Strategies」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「English Test Strategies」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任5」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「English Using CALL」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「English Using CALL」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任1」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「中国語基礎Ⅰ」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「中国語基礎Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任4」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「中国語基礎Ⅱ」の配当年次を「1年後期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「韓国語基礎Ⅰ」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「韓国語基礎Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「韓国語基礎Ⅱ」の配当年次を「1年後期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「韓国語基礎Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「インドネシア語基礎Ⅰ」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「インドネシア語基礎Ⅱ」の配当年次を「1年後期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「フランス語基礎Ⅰ」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「フランス語基礎Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「フランス語基礎Ⅱ」の配当年次を「1年後期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「フランス語基礎Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「ドイツ語基礎Ⅰ」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「ドイツ語基礎Ⅱ」の配当年次を「1年後期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「スペイン語基礎Ⅰ」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。 ・教育課程の充実を図るために、「生涯スポーツ1」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
39 科目	163 科目	0 科目	202 科目	39 科目 [0]	163 科目 [0]	0 科目 [0]	202 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{202} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (電車・バス90分)		
	校舎敷地	49,716.30㎡	23,095.99㎡	14,083.86㎡	86,896.15㎡			
	運動場用地	0㎡	13,351.00㎡	13,800.00㎡	27,151.00㎡			
	小 計	49,716.30㎡	36,446.99㎡	27,883.86㎡	114,047.15㎡			
	そ の 他	1,877.06㎡	0㎡	0㎡	1,877.06㎡			
	合 計	51,593.36㎡	36,446.99㎡	27,883.86㎡	115,924.21㎡			
(2) 校 舎	専 用	24,372.88	37,626.00	16,452.63	82,787.37	目白大学短期大学部と共用 校舎の一部(8号館)の建て替え に着手したこと、及び短期大学 部新学科の設置認可申請に伴う 共用面積の見直しにより、平成 32年度以降の校舎面積が増加す ることとなった。(30)		
	22,447.43㎡ (22,447.43㎡)	41,654.71㎡ (41,654.71㎡)	17,170.58㎡ (17,170.58㎡)	81,272.72㎡ (81,272.72㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	81室	43室	57室	16室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		(助教2名1室)		
	メディア学部 メディア学科			18 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	学部単位での 特定不能なため 大学全体の数
	メディア学部	394,158 [34,051] (362,158 [33,251])	1,179 [277] (1,171 [277])	185 [185] (177 [177])	12,463 (12,183)	0 (0)	0 (0)	
	計	394,158 [34,051] (362,158 [33,251])	1,179 [277] (1,171 [277])	185 [185] (177 [177])	12,463 (12,183)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			大学全体
	4,393.13㎡		708		297,445			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	4,636.70㎡		テニスコート —					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	2,100千円	2,200千円	
	共 同 研 究 費 等	1,300千円	1,300千円	設備購入費	141,696千円	5,000千円	5,000千円	
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,376千円	1,101千円	1,101千円	1,101千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		経常費補助金、資産運用収入、付随事業収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	目 白 大 学							備 考	
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
人間学部						1.01			
心理カウンセリング学科	4	120	3年次 10	500	学士 (心理学)	1.13	平成12年度	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	
人間福祉学科	4	100	3年次 10	460	学士 (人間福祉学)	0.81	平成16年度	同上	※平成29年度入学 定員減(△20人)
子ども学科	4	140	3年次 10	580	学士 (子ども学)	0.99	平成19年度	同上	
児童教育学科	4	50	—	200	学士 (児童教育学)	1.22	平成21年度	同上	
社会学部						1.08			
社会情報学科	4	120	3年次 5	490	学士 (社会情報学)	1.06	平成12年度	同上	
メディア表現学科	4	—	—	—	学士 (社会科学)	—	平成12年度	同上	※平成30年度より 学生募集停止
地域社会学科	4	80	3年次 5	330	学士 (地域社会学)	1.11	平成18年度	同上	
メディア学部						1.05			
メディア学科	4	140	—	140	学士 (メディア学)	1.05	平成30年度	同上	※平成30年度開設
経営学部						1.08			
経営学科	4	130	3年次 5	510	学士 (経営学)	1.08	平成14年度	同上	※平成29年度入学 定員増(10人)
外国語学部						1.09			
英米語学科	4	80	3年次 5	330	学士 (英米語)	1.24	平成17年度	同上	
中国語学科	4	40	—	160	学士 (中国語)	0.77	平成20年度	同上	
韓国語学科	4	60	—	240	学士(韓国語) 学士(韓国語教育)	1.18	平成20年度	同上	
日本語・日本語教育学科	4	40	—	160	学士(日本語) 学士(日本語教育)	0.98	平成20年度	同上	
保健医療学部						1.02			
理学療法学科	4	85	—	330	学士 (理学療法学)	1.12	平成17年度	埼玉県さいたま市 岩槻区浮谷320番地	※平成29年度入学 定員増(5人)
作業療法学科	4	60	—	240	学士 (作業療法学)	0.99	平成17年度	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士 (言語聴覚学)	0.88	平成18年度	同上	
看護学部						1.08			
看護学科	4	105	—	410	学士 (看護学)	1.08	平成18年度	同上	※平成29年度入学 定員増(5人)

大学の名称	目白大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
国際交流研究科									
国際交流専攻	2	20	—	40	修士 (国際学)	0.7	平成11年度	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	
心理学研究科									
現代心理学専攻	2	20	—	40	修士 (心理学)	0.47	平成20年度	同上	
臨床心理学専攻	2	30	—	60	修士 (心理学)	0.43	平成14年度	同上	
心理学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (心理学)	0.33	平成16年度	同上	
経営学研究科									
経営学専攻	2	20	—	40	修士 (経営学)	0.12	平成16年度	同上	
経営学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (経営学)	0	平成21年度	同上	
生涯福祉研究科									
生涯福祉専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学) 修士(保育学)	0.2	平成19年度	同上	
言語文化研究科									
英語・英語教育専攻	2	10	—	20	修士 (英語学)	0	平成20年度	同上	
日本語・日本語教育専攻	2	10	—	20	修士 (日本語学)	0.8	平成20年度	同上	
中国・韓国言語文化専攻	2	10	—	20	修士(中国言語文化) 修士(韓国言語文化)	0.55	平成20年度	同上	
看護学研究科									
看護学専攻	2	15	—	30	修士 (看護学)	0.56	平成21年度	埼玉県和光市諏訪 2丁目12番地	
リハビリテーション学研究科									
リハビリテーション	2	15	—	30	修士 (リハビリテーション学)	0.19	平成24年度	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	
大学の名称	目白大学短期大学部								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
生活科学科	2	75	—	155	短期大学士 (生活科学)	1.01	昭和39年度	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	※平成30年度入学 定員減(△5人)
製菓学科	2	70	—	150	短期大学士 (生活科学)	0.88	平成19年度	同上	※平成30年度入学 定員減(△10人)
ビジネス社会学科	2	75	—	135	短期大学士 (社会経済)	1.13	平成22年度	同上	※平成30年度入学 定員増(15人)

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科),

大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

- ・ 学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
- ・ 専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
- ・ AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時</p> <p>(平成30年5月)</p>	<p>1. 本学から示されたメディア学を学ぶための基盤となる社会学に関する知識を十分に修得できるように、新たに科目(社会学理論、社会学史等)を配置することや関連科目の授業内容を改めることにより、教育課程を充実させること。</p>	<p>留意事項</p> <p>指摘を受けて、学部基幹科目「メディアと社会」および「メディア学概論」のシラバスを見直し、社会学の系譜と理論、ならびにそれらの理論とメディア学との関係を体系的に学べるように充実させた(添付資料1、2)。</p> <p>「メディアと社会」は元々、本学部が考えるメディア学の基礎となる社会学の理論を紹介しつつ、社会学が「社会」をどのようにとらえてきたかを理解し、今、ここにある世界としての現代社会について考えるための視点を身につけることを目的に設置していた科目である。</p> <p>また「メディア学概論」は、メディア学の構造を概観しつつ、その基礎となるようなメディアに関する理論および歴史を理解し、各分野の専門的な学びに架橋するための科目である。両者とも1年生の春学期に開講される、重要な学部基幹科目として配置されていた。</p> <p>今回はこの2科目について、上に示した授業のねらいを踏襲しつつ、メディア学を学ぶための基盤となる社会学に関する知識をより深く学べるよう、授業各回の内容ならびに授業順序の見直しを行なった。変更点は以下の通りである。</p> <p>①社会学の系譜を理解する 「メディアと社会」シラバスに社会学が辿ってきたあゆみを学ぶ単元(第2～4回)を導入し、社会学が「社会」をどのようにとらえてきたか、またその枠組みがどのように変化してきたか、そこにはどのような理論的背景があるのか等を説明することとした。</p> <p>②社会学の理論を深める 申請時の「メディアと社会」では「自己」「親密性」「近代家族」「労働」「文化」「逸脱」「感情」という7つのキーワードで社会学理論を説明する枠組みを想定していたが、今回は上記①に挙げた社会学史を踏まえ、「合理性」「社会化」「社会的分業」「社会的自己」「生活世界」「相互作用」「構築主義」「親密性」という8つの概念を順に説明することで、歴史的・系統的に社会学の深化を学べるシラバスに変更した。</p> <p>また「メディア学概論」においても「権力」「差異化」といったキーワードを追加し、メディア学を学ぶ上で重要となる社会学の概念を説明する単元を増やすと同時に、これらの理論がメディア学の各領域にどのように関係しているかを説明する単元を設けて、メディア学と社会学理論のつながりを体系的に学べるようシラバスを充実させた。</p>	<p>履行済</p>

		<p>なお、「メディアと社会」の必須教科書（ならびに「メディア学概論」の参考図書）として、友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編(2007)『社会学のカー最重要概念・命題集』有斐閣を指定し、授業の予習・復習ならびにレポート作成時に活用させることで、社会学理論への理解をさらに深めることのできる体制を用意した。</p>		
<p>2. 「情報ネットワーク論」について、基礎的な理論を学修する講義科目として、十分な教育を確実に行うこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>「情報ネットワーク論」の授業内容について、再度教育内容に関して検討し、基礎的な理論を学修する講義科目として、十分な教育を確実に行うことができるようシラバスの設計を行った（添付資料3）。</p> <p>具体的な対応は以下の通りである。</p> <p>1) 第1回に、情報ネットワークについて概観し、第2回以降でデジタルデータ伝送、データ通信と通信プロトコル、インターネットの基礎的な技術について学習を進める。その上で、代表的な情報ネットワークであるWeb、Webで動作するECシステム、最近注目されているIoT (Internet of Things) 等について学習する。最後にセキュリティについても学ぶ。</p> <p>2) 小テスト、レポート課題により適宜、習熟度をはかり、十分かつ確実な教育内容となるよう補足や追加説明を随時行う。</p>	<p>未履行</p>	<p>提出したシラバスにもとづいて、現1年生が3年生となる平成32年度に実施予定。</p>
<p>3. 「メディア実践演習3,4」については、4年次前期の前半及び後半で、それぞれ集中的に学修するとあることから、学生が学習目標や授業計画を正しく理解した上で履修できるよう、シラバスを充実させること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>指摘を受けて、メディア実践演習3,4の位置づけを正しく理解できるよう、学修目標や授業計画に関するシラバスの記述を充実させた(添付資料4)。具体的には以下の通りである。</p> <p>①メディア実践演習3のシラバスについて</p> <p>「備考」欄において、4年春学期前半に週2コマで開講する科目であることを明記した。さらに、3年生で実施したクラス単位での実践プロジェクトから得られた知見を整理・確認した上で、メディア実践演習の最終成果として4年春学期に展開する個人研究プロジェクトの実施方法を確認し、具体的な計画を策定するというこの科目の位置づけを、「授業のねらい」および「学生の学習目標」で明確にした。</p> <p>②メディア実践演習4のシラバスについて</p> <p>「備考」欄において、4年春学期後半に週2コマで開講する科目であることを明記した。また、「授業のねらい」および「学生の学習目標」において、メディア実践演習3で策定した計画に基づき実際に個人研究プロジェクトを実施することと、実施結果から得られた知見を整理し、4年秋学期の卒業研究に活かすための方策を考えるという、この科目の位置づけや目的を明確にした。</p>	<p>履行済</p>	

		さらに授業内容も、全体を1. 個人研究プロジェクトの実施、2. 個人研究プロジェクトを実施した結果の整理、3. 得られた知見のプレゼンテーション、4. これまでのメディア実践演習の振り返り、5. これまでのメディア実践演習の成果を卒業研究に活かすためのディスカッション という5段階に分け、それぞれの段階で学生が取り組むべき事柄を明確にした。	
○メディア調査法の学修においては、調査結果を正しく読み解く知識を修得することが重要なため、学修内容を充実することが望ましい。	その他意見	<p>本学部では、ディプロマポリシーに基づき、全学生に修得させる能力の一つに「メディアに関わる事象に対する実践的な調査・分析・評価をおこなう能力」を挙げている。メディア調査法の学修に関しては、上述の部分に大きく関わる部分として捉えており、調査方法の修得と合わせて調査結果を正しく読み解く知識を修得できる内容として学修内容を充実させる。</p> <p>具体的な対応は下記の通りである。</p> <p>1) 社会調査法の基礎的な知識を得て実証的研究方法について理解することを目的とする「メディア調査法1」については必修科目として、本学部の全学生に履修させる。本授業においては、社会調査法の基礎を学んだのち、多様な社会調査法について実践しながら調査結果の読み解き方について教授する。</p> <p>2) 「メディア調査法2」については、質問紙調査を中心にその実施手順と注意事項を学ぶ授業であるが、合わせて、メディアで流通する質問紙調査の結果を正しく読み解くリテラシーを身につけることを目標としている。</p> <p>3) 「メディア統計分析」においては統計の基礎知識とスキルを学んだ上で、データを客観的に判断できる知識とスキルを身につけることを目的とする。</p> <p>4) 1) - 3) の科目群は、社会調査士資格にも対応できる内容とする。</p> <p>5) 上記科目については、共通科目(必修)である「情報活用演習I・II」、専門科目(必修)である「メディア・リテラシー論」とも連携しながら進めることで、学修内容の充実を図る。</p>	履行済
○入学を希望する学生等が、本学科と既設の社会学部社会情報学科との違いを理解できるよう、十分に周知することが望ましい。	その他意見	ご指摘に対応するため、本学のWebサイト、リーフレットにおいて、メディア学部メディア学科の「4年間の学びのステップ」「学びのポイント」「学べるテーマ」を掲載し、受験生が本学科の学びを理解できるようにした。これらの内容については、受験生に配布する入学案内パンフレットにも同様の内容を掲載し、オープンキャンパスにおいても説明している。	履行済

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等

について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<メディア学部 メディア学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
設置計画変更事項等について特記事項はない。	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

「目白大学新宿キャンパス各種委員会規程」並びに「目白大学さいたま岩槻キャンパス各種委員会規程」に基づき、新宿キャンパス（人間学部、社会学部、メディア学部、経営学部及び外国語学部）並びにさいたま岩槻キャンパス（保健医療学部及び看護学部）毎に副学長（総務担当）を委員長とする「FD実施委員会」を設置している。

平成30年度よりメディア学部メディア学科の教員1名も委員として学長が任命し、平成30年4月18日開催の学部長等会議にて報告された。

（添付資料5「目白大学新宿キャンパス各種委員会規程」、添付資料6「目白大学さいたま岩槻キャンパス各種委員会規程」を添付）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成29年度はキャンパス合同で6月28日にFD実施委員会を開催し、構成員の8割以上が出席した。

平成30年度もキャンパス合同で「第1回FD実施委員会」を6月に開催予定。

c 委員会の審議事項等

<平成29年度実績>

- ・平成29年度全学FD研修会実施計画について
- ・平成28年度「FD活動実施報告書」について
- ・平成29年度「FD活動実施計画書」について

平成30年度も同様の内容を実施予定。

② 実施状況

a 実施内容

- ・科研費改革についての説明会
- ・コンプライアンス教育及び研究倫理教育
- ・障がい学生への合理的配慮についての説明会
- ・研究成果報告会
- ・教育内容改善及び教育技術の向上に関する講演会
- ・その他学科独自の授業内容・方法を改善し向上させるための取り組み

b 実施方法

全学教員を対象とした「全学FD研修会」を年2回実施すると共に、学科単位でのFD研修会を年1回以上実施してFD活動実施報告書を研究支援課に提出することとしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

平成29年度第1回全学FD研修会（9月20日開催）教員204名出席

平成29年度第2回全学FD研修会（兼SD研修会）（11月18日開催）教職員232名出席

- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
 全学、及び学科ごとのFD研修会で取り上げたテーマを参考に、各授業の改善や教育技術の向上に役立てている。
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
 実習等を除く授業において、2年間のうち最低1回は学期末に「授業評価アンケート」を実施することを原則としている。
- b 教員や学生への公開状況、方法等
 集計結果は、授業担当教員が学内Webサイト（スタッフネット）上において「教育活動自己点検・自己評価アンケート」に回答する形式で確認し、次年度以降の授業改善に役立てることとしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
 (別紙のとおり)
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表(予定)時期
 ・ 「平成29年度自己点検評価報告書」を平成30年7月末に公表予定
- b 公表方法
 ・ 大学ホームページ上に公開予定(平成30年7月末を予定)
- ③ 認証評価を受ける計画
 ・ 平成35年度までに評価機関(日本高等教育評価機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
 また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
 なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書
- a ホームページに公表(予定)の有無 (有 無)
- b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 (平成31年2月末を予定)

(注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
 ・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。